

どうして日本の人口はもっと早くから減らなかったの？

経営環境研究部 研究員 神村 玲緒奈(かみむら れおな)

合計特殊出生率と人口置換水準

女性が一生のうちに出産する子どもの数に相当する指標である「合計特殊出生率」は、人口が維持される水準である「人口置換水準」を下回り続けています。日本の人口置換水準は2.1程度で推移しており、合計特殊出生率は1974年から1度も人口置換水準まで回復しませんでした(資料1)。

しかし、日本の人口が減少し始めたのは2005年からであり、それまでは人口は減少していません。なぜ、それまで人口が減らなかったのでしょうか。

「人口モメンタム」という特性

これには「人口モメンタム」という、人口動態における慣性の法則のような特性が関係しています。

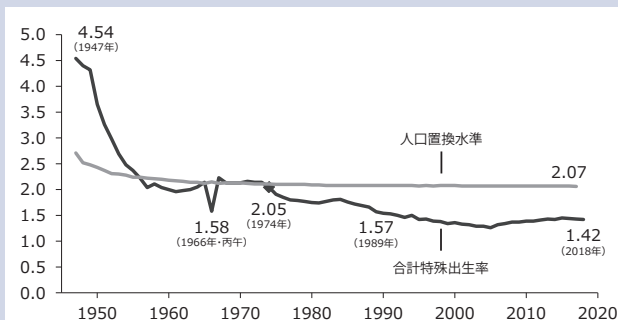
長年に渡って合計特殊出生率が人口置換水準を上回っている場合、若い世代ほど人口が多くなり、しばらくの間は子どもを産む親となる世代(再生産年齢人口)も増加します。そのため、合計特殊出生率が減っても、生まれてくる子どもの総数はむしろ増えることがあります(資料2①)。

また、出生数が減少し始めても、若い世代が多い人口構造では死亡数の増加は緩やかであるため、しばらくは出生数が死亡数を上回ります(資料2②)。こうして日本では、合計特殊出生率が人口置換水準を下回っていても、人口が減らなかったのです。

再生産年齢人口の減少で人口は今後も減り続ける

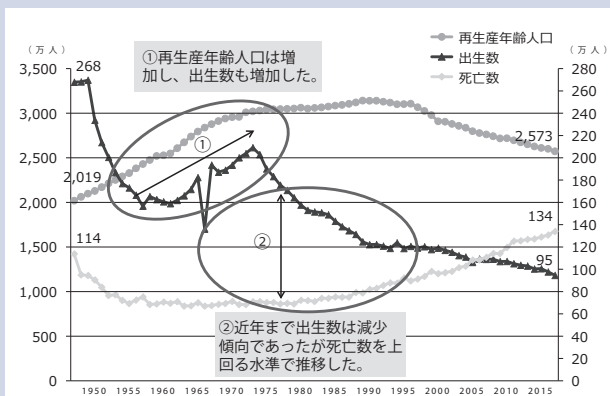
今の日本は逆に、人口の減少モメンタムが働いている状態にあり、合計特殊出生率が回復しても、しばらく人口は減り続けることとなります。国立社会保障・人口問題研究所によると、仮に2015年以降の合計特殊出生率が、人口を維持する水準の2.07で推移した場合でも、人口減少は2070年代ごろまで続くと試算されています(資料3)。人口減少は今後数十年は避けられないという前提で、経済社会活動のあり方を考える必要があるでしょう。

資料1 日本の合計特殊出生率と人口置換水準の推移



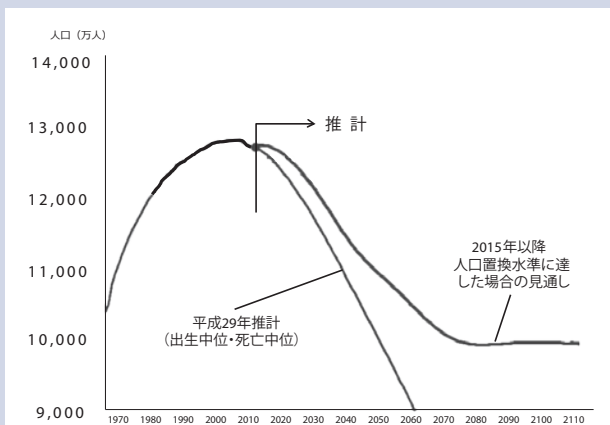
(出所) 厚生労働省「人口動態統計」より筆者作成

資料2 再生産年齢人口・出生数・死亡数の推移



(出所) 厚生労働省「人口動態統計」「国勢調査」、総務省統計局「日本の人口推計」より筆者作成

資料3 出生率が人口置換水準に達した場合の人口見直し



(注) 死亡率一定、国際人口移動なしと仮定

(出所) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来人口推計-解説および条件推計」